

番号	課名
F - 1	教育総務課

事務事業名	スクールバス等運行事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	少子化の加速化と将来的な学校施設の整備方針、通学路の見直し、通学支援の検討	
	関連施策名(施策コード)	VI-18-41 VII-21-50	快適な住環境の確保 防犯・見守り体制の充実

事業内容(経緯)	学校統廃合等により、通学する学校が変更となる児童・生徒の登下校の通学距離が遠距離になることから、スクールバス事業の対象者に対し、市内運行委託事業者によるスクールバスや通学タクシーを利用した通学支援を行います。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	スクールバス運行対象児童生徒数	対象校:臼杵小、臼杵南小、野津小、北中	人	154	154	137	128	142
②	通学タクシー対象児童生徒数	対象校:臼杵小、臼杵南小、下北小、南野津小、北中、東中、野津中	人	21	27	26	26	20
③	スクールバス運行路線数	上浦・深江線、中臼杵線、戸上線、都松線、田野線、佐志生・下ノ江線	路線	6	6	6	6	6
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童生徒1人あたり運行経費				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	スクールバス等運行事業に係る総経費÷利用児童生徒数			
	34,675	35,781	内容		数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源			206.0	186.0	213.0	233.0	260.0

事業対象	スクールバス事業の対象となる児童生徒	今年度の成果	遠距離通学の児童、生徒にとって安心・安全な通学ができ、同時に保護者による送迎負担の軽減を図ることができました。
------	--------------------	--------	---

成果指標	指標名	利用希望者の利用率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	利用児童生徒数/利用希望児童生徒数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	通学支援が必要な児童生徒が利用できているのか	%	100	100	100	100	100

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	学校の統廃合等で遠距離通学となることにより、通学手段としてのスクールバスや通学タクシー運行の需要が高まっています。児童・生徒の居住地により路線を考えるため、単に効率性のみで運行を決定できない面もありますが、年度ごとに可能な限り無駄のない便の設定に努めています。	

事業の問題・課題	地域によってはスクールバスの運行が難しく、タクシーで対応しているところがあり、コストが膨らんでいる現状があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	引き続き、スクールバス運行事業の委託先や学校関係者と協議の場を設け、バスの乗り場や下校時のタクシー運行数等、現行の運行路線を適宜見直します。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 2	学校教育課

事務事業名	ICT活用教育推進事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	「授業力向上」及び21世紀を生き抜く子どもに必要な学力向上の取組、子ども教育内容充実のための教職員の働き方改革	
	関連施策名 (施策コード)	V-12-25	教育環境の整備・充実

事業内容 (経緯)	GIGAスクール構想に基づく1人1台端末及び通信環境の整備完了を受け、ICT教育に不可欠な授業力の向上を目指した教職員のタブレット端末や授業支援アプリ等の活用研修、ICT支援員の派遣、家庭学習への活用を図るためのルール作りなど、変化の激しい情報化社会を生き抜くために必要とされる「問題解決能力」の育成に必要なソフト・ハード両面のICT環境の整備を実施しています。
--------------	---

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
①	校内ICT研修実施校数	校内ICT研修を年3回以上実施した学校数	校	-	18	18	18	18
②	授業でICTを活用した指導ができる教員の割合	文科省・教員のICT活用指導力等の実態調査「授業中にICTを活用して指導する能力」に対して、「できる」「ややできる」の割合	%	81	81	85	90	90
③	授業で児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合	文科省・教員のICT活用指導力等の実態調査「児童生徒のICT活用を指導する能力」に対して、「できる」「ややできる」の割合	%	-	-	83	90	90
④	電子黒板の整備台数	普通教室、特別支援教室、特別教室(理科室)の電子黒板の整備台数	台	-	-	23	23	163

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童・生徒1人に対するICTツール(機器・ソフトウェア)導入費用					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	機器購入、ライセンス及びシステム使用料の1人あたりの金額(単位:円、R6以外の児童生徒数は文科省学校基本調査適用)				
	25,767	26,767	内容			数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
			財源				51,534	1,707	3,776	4,690	20,708

事業対象	市内の児童・生徒	今年度の成果	授業の中でICTを活用する教員の割合は年々増加傾向です。全員の意見の共有・発表等の「協働的学び」やデジタルドリル教材の活用も各校で進み、自分のペースで学習できる「個別最適な学び」の実現も出来ました。
------	----------	--------	---

成果指標	指標名	ICT機器を使うのは勉強に役立つと考える児童・生徒の割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	毎年実施する全国学力調査の「コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つか」という質問に対して「かなり役立つ」「役立つ」と回答した割合。		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
	指標設定の理由	ICT機器の整備や教員の授業におけるICT活用能力の向上を図った結果として、子どもたちの学びに反映されているかを検証するため。		%	-	小96.1 中96.0	小95.1 中95.1	小97.3 中96.1

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	教員のICT活用や子どもたちがICTが学習に役立つと感じる割合が増加するなど、一定の成果を実感しています。効率性については、授業活用頻度の高くない教員の存在やデジタルドリルの活用に消極的な学校が見られ、引き続き活用頻度を高める取り組みが必要です。

事業の問題・課題	事業の成果が出てきており、授業等でのタブレット端末の活用が促進されていますが、全く活用していない教員が少数いるなど、学校間や教員間の格差が生じている可能性があります。また、タブレット端末を活用した持ち帰り学習に消極的な学校が見られます。	目標達成に向け、次年度以降の取組	電子黒板の整備を令和6年度中に完了し、タブレット端末等との相互活用により更なるICT活用の推進を図ります。学校間、教員間の格差を無くすために管理職への働きかけを検討します。また、市内小・中学生の表現等のICT活用能力を表現・発揮する機会の創出を検討します。
----------	--	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化
施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			

番号	課名
F - 3	学校教育課

事務事業名	自然の中での宿泊体験事業(農泊体験授業)		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ソフト
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	自然の恵みの中での行われる体験活動や人とのふれあいを通して、豊かな感性と感謝の気持ちを育む。		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	平成21年度から市内小学生を対象に、農村民宿に滞在し、受入家庭の方々との交流や自然体験活動を通して、子どもたちの学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育む自然体験活動を実施しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	参加児童数	市内小学校5・6年生で宿泊体験事業に参加した児童数	人	-	299	314	481	265
②	募集参加学校数	市内小学校5・6年生で宿泊体験事業に参加した学校の率	%	-	100	100	100	100
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	農泊1泊2日、1人当たりの費用					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	11		説明・算式・引用	委託料、保険料、交通費				
	3,682	4,808	内容	農泊体験学習委託	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	市費			-	10.7	11.7	10.0	13.8

事業対象	小学校5・6年生	今年度の成果	昨年度コロナ禍で実施できていなかった8校の6年生と、5年生全員を対象に実施しました。令和5年5月22日から令和5年11月17日の期間で、481人実施できました。
------	----------	--------	--

成果指標	指標名	農泊体験学習アンケート提出率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	実施後の児童生徒の感想		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	コストでは測れない郷土愛の醸成と成長を確認するため		%	-	100	100	100

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	実施後のアンケートでは、体験後の児童の様子から成長が実感でき、子どもたちの生き生きと活動する姿が見れた等多くの成果があり大変好評でした。また、小中一体教育の推進により、同一ブロック内の小学校が合同で参加し、交流を図るとともに、事業の効率を図ることができました。今後も継続していくべき事業です。	

事業の問題・課題	農泊受入家庭の減少や高齢化に伴い、今後見直しをもって実施の形態等考えていかなければなりません。	目標達成に向け、次年度以降の取組	ここ3年間はコロナの影響を受け、実施困難な状況にもなりましたが、今年度で調整することができ、来年度からは本来の5年生を対象に実施していけるようになりました。安全安心で魅力的な農泊になるよう、引き続き関係各位と連携を密に取りながら実施していきます。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 4	学校教育課

事務事業名	臼杵市学校給食運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	安全でおいしく栄養バランスのとれた学校給食の提供及び健全な心身の成長をめざした食育の推進	
	関連施策名 (施策コード)	IV-11-20	「有機の里うすき」の実現

事業内容 (経緯)	本市では、児童・生徒、教職員の計約2,500食を提供しています。有機栽培された「ほんまもん農産物」等の地元食材の使用率向上を図るとともに、栄養教諭による食や栄養、マナーなどの食育指導も積極的に実施しています。また、保護者や学校との綿密な確認等で可能な限り通常食に近い喫食となるよう食物アレルギー対応食を提供しています。近年では学校給食センターの施設及び設備・機器の更新・改修の必要な箇所が増加しています。
--------------	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
①	食育に関する授業の回数	栄養教諭による食育授業回数	回	119	134	153	194	200
②	学校で食育授業を受けた児童・生徒数の割合	栄養教諭による食育授業を年1回以上受けた児童・生徒の割合	%	70.8	83.7	93.3	100.0	100.0
③	ほんまもん農産物の使用割合	使用野菜総量(重量ベース)に対するほんまもん野菜の割合	%	12.5	11.4	23.9	23.7	25.0
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	給食1食あたりの運営事業費				
	前年度 (R4)	当該年度 (R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	公費負担における1食あたりの経費 (事業費決算額/年間の提供給食食数)			
	243,259	209,244	内容	学校給食費	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
			財源	一般財源・国等交付金		392	388	475	408	480

事業対象	市立小中学校の児童・生徒	今年度の成果	ほんまもん野菜の使用率は、猛暑の影響により昨年度から微増ですが、年間の野菜全体の約1/4、臼杵市産野菜ではその約6割近くをほんまもん野菜が占めるなど、安全で高品質な野菜を使用する地産地消の取り組みが進んでいます。
------	--------------	--------	--

成果指標	指標名	学校給食に臼杵市産野菜を使用している割合	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	使用野菜総量(重量ベース)に対する臼杵市産野菜の割合		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
	指標設定の理由	多くの使用品目における臼杵市産野菜の使用率を把握することができるため	%	35.64	36.14	43.84	41.34	45.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	学校給食は、子どもたちの健全な成長に資する重要な事業です。ほんまもん野菜使用率約25%と全国有数の高率ですが、天候不順による納入キャンセルや規格のばらつき、給食畑の野菜との納入調整等、使用率向上には課題が少なくありません。

事業の問題・課題	昨今の著しい価格高騰下で学校給食費を値上げせずに安定的かつ品質を保持するためには、食材購入費に充てる国(交付金)等の財源確保が不可欠となっています。また、学校給食センターの経年により、施設及び設備・機器の更新や改修の必要性が高まっています。	目標達成に向け、次年度以降の取組	価格高騰分の食材購入費に国の交付金を活用し、引き続き給食費を据え置きながら品質保持に努めます。一般流通の野菜に比べ下処理が大変なほんまもん野菜をより多く使うため、委託業者(調理員)の協力が不可欠です。また、米飯における地元有機米等の使用率向上に関係課等と連携しチャレンジします。
----------	--	------------------	---

課長評価	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 中	向上

番号	課名
F - 5	学校教育課

事務事業名	いじめ対策、不登校支援事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	いじめの認知数・不登校の児童生徒の増加	
	関連施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
		I-2-4	地域における子育て環境の充実

事業内容(経緯)	「いじめ見逃しゼロ」をめざし積極的認知を行っています。いじめ対策・不登校支援等の対応は、担任や学校だけでなく「チーム学校」として専門性のあるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター「きずな」、臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと」等と学校が連携し、組織的な対応を推進します。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	いじめ認知件数	問題行動調査等生徒指導上の諸問題に関する調査	件	(小)211 (中)80	(小)323 (中)57	(小)212 (中)68	(小)206 (中)58	(小)150 (中)50
②	QU学級生活不満足群の割合	QUは、いじめ・不登校未然防止の検査。小6、中1で実施	%	(小)17 (中)16	(小)14 (中)22	(小)16 (中)17	(小)9.6 (中)17	(小)10 (中)15
③	SSWが対応した件数	児童生徒、保護者、教職員等対応件数	件	216	573	424	334	300
④	教育支援センター「きずな」登録者数	「きずな」へ登録した児童生徒数	人	11	20	15	22	15

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	いじめの認知数・不登校の児童生徒調査					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	1人当たりの問題行動調査等生徒指導上の諸問題に関する調査費				
	5,630	6,514	内容	いじめの認知数・不登校の児童生徒支援費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	県補助金			-	16.5	20.1	24.7	-

事業対象	市内の児童生徒	今年度の成果	各校ともチームカンファレンスやケース会議等を開き、組織的に児童生徒支援を行う意識・体制が強化されました。未然防止、早期対応により解決に至る事案が増えました。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	いじめ解消率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	問題行動調査等指導に関する調査(いじめの解消数÷いじめの認知数)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	いじめの認知数・不登校の児童生徒の増加に伴う調査	%	(小)76 (中)62	(小)61 (中)72	(小)54 (中)56	(小)50 (中)87	(小)60 (中)90

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	いじめ防止対策推進法によるいじめは「児童等が心身の苦痛を感じているもの」であり、積極的に認知し解消率を上げることが必要です。児童生徒が安全安心の中で学校生活を送ることができるために必要な取り組みです。

事業の問題・課題	児童生徒の支援とともに、年々、家庭支援が必要な事案が増えつつあり、教職員だけでは解決できないケースが増えてきました。現在のSSWだけでは対応しきれない時もあり、今後ますます関係機関との連携が必要です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	SSWや子ども子育て課等と学校の定期的なチームカンファレンス会議による情報共有を行うとともに、同じ方向性を持って支援していく必要があります。対応が必要な場合はケース会議を行い、早期解決をめざします。
----------	--	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 6	学校教育課

事務事業名	学力向上対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-24	基礎学力の定着と向上
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市の児童生徒の学力定着と向上を図る	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯) 臼杵市の全ての子どもたちが笑顔で「15の春の自立」を迎えるため、確かな学力の定着をめざします。中学校ブロックごとの小中一体教育による小中連携、高校生学習サポーターの活用による中高連携も行います。複式授業解消、少人数指導、ATの活用などによる、個に応じた指導の充実、授業力向上を図ります。臼杵市基礎基本テスト等で基礎学力の定着状況を把握し、補充学習や授業改善に活用します。

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	複式授業の解消率	複式授業解消の割合	%	100	100	100	100	100
②	中学校3年生英語検定受検者数と合格率	受検者数と合格率	人数%	110人 72%	79人 72%	110人 64%	147人 49%	130人 70%
③	アシスタントティーチャー登録者数	予算範囲の登録者数	人数	11	10	10	10	10
④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	児童生徒の学力定着と向上				
		前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	一人当たりの児童生徒の学力定着と向上に係る経費			
	28,248	36,982	内容	学力向上対策事業	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	県支出金・地方債			-	-	-	-	-

事業対象 市内小・中学校児童生徒 今年度の成果 市独自の加配教員を活用し、細やかな指導が実現しました。臼杵市基礎基本テストで小中共に全学年で全国平均以上の学力を定着できています。

成果指標	指標名	臼杵市基礎基本テストの正答率					単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	全ての教科正答率が、全国正答率を上回る割合						R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	複式授業解消、少人数指導、ATの活用などによる、個に応じた指導の充実の結果として、子どもたちの学力に反映されているかを検証するため。					%	75%(小) 90%(中)	100%(小) 100%(中)	83%(小) 100%(中)	75%(小) 90%(中)	80%(小) 80%(中)

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	臼杵市は生きる力を身につけた子どもの育成を教育目標に掲げ、確かな学力の定着・向上に取り組んでいます。臼杵っこの将来の夢の実現のため、学力保障・進路保障として必要不可欠な事業です。

事業の問題・課題	質の高い授業が行われるよう授業改善に取り組みました。研修の充実を図り、ATによる個別指導等の充実も行いました。英検補助については、検定料の大幅な値上げがあり更なる負担減に向けた予算化が必要です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	ミドルリーダーを活用し、客観的な数値を分析し、主体的・協働的な研修を実施する必要があります。管理職やミドルリーダー等に、学校経営力アップ研修や若手教員のスキルアップのための事業を継続して実施します。
----------	---	------------------	---

課長評価	施策への貢献度	今後の方針
	順調 貢献度 大 向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 7	社会教育課

事務事業名	公民館管理・運営事業(臼杵地域)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-30	生涯を通じた学びの推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	施設利用者の高齢化等による減少	
	関連施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援
		V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承

事業内容(経緯)	臼杵市中央公民館は、市民が気軽に学びに集える環境整備に努めるとともに、地域課題を解決できる住民の育成をめざし、学習機会を提供しています。また、公民館教室の他、各種自主・OB教室の活動も推進しています。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	公民館・公会堂利用団体数	利用団体数の推移(延べ)	団体・教室	1,086	1,115	1,357	1,500	2,000
②	公民館・公会堂使用料	公民館の収入(利用料)	千円	2,073	1,741	2,626	3,131	3,300
③	公民館・公会堂維持費	公民館施設維持のための支出費(光熱水費)	千円	3,018	3,385	3,567	2,489	3,800
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公民館利用者一人当たりの費用					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	公民館を維持する経費/公民館・公会堂の利用者数				
	14,935	34,313	内容	公民館施設の改修工事により増加	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			322	286	300	498	250

事業対象	市民	今年度の成果	コロナ禍で中止となっていた「公民館まつり」等の主要事業も再開され、利用者数も増加(回復)傾向となりました。また、令和5年度は、公民館の防災設備等の改修工事が完了し、より安心して利用いただく環境が整いました。
------	----	--------	---

成果指標	指標名	利用者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	公民館・公会堂の利用状況		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	公民館(公会堂)の年間利用者数により、市民が集う場所として有効活用できているか判断する。		人	39,184	44,990	49,705	68,874

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	B	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	現在、利用者数は回復傾向であるが、まだコロナ禍前までの水準には届いていないため、利用者目標で創意工夫を行うよう努めます。				

事業の問題・課題	現在の公民館利用者に加え、利用されていない世代へのアプローチが必要と考えるため、新たな事業実施を検討する。	目標達成に向け、次年度以降の取組	公民館教室の開設、公民館まつりの開催(利用者数の増加につなげるように)
----------	---	------------------	-------------------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 中	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 8	社会教育課

事務事業名	公民館施設管理運営事業(野津地域)			新規・継続・単年	継続					
				ソフト・ハード	ソフト					
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-30	生涯を通じた学びの推進							
	施策の課題(事務事業の実施目的)	施設利用者の高齢化による減少								
	関連施策名(施策コード)	I-3-6	高齢者の生きがいづくりへの支援							
		V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承							
事業内容(経緯)	市民のだれもが輝き続ける自分づくりのために、心の豊かさや生きがいを持ち、生涯を通じて学び続けることができる施設となるよう環境整備を行うとともに、公民館教室や自主教室などの学習機会を提供していきます。									
行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
	①	野津中央公民館利用者数	利用者数	人	17,787	21,029	25,376	29,291	35,700	
	②	田野地区公民館利用者数	利用者数	人	1,006	848	1,214	1,833	3,500	
	③	南野津地区公民館利用者数	利用者数	人	2,113	2,284	2,540	2,569	4,000	
④										
基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公民館施設の活用にかかる公民館費の利用者数一人当たりのコスト				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	公民館費/利用者数				
	26,780	47,269	内容	野津中央公民館の改修工事により増加	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源		58	1,013	919	1,471	130
事業対象	市民・企業・団体		今年度の成果	コロナ禍により制限されていた社会教育活動が再開され、施設利用者数も回復傾向となってきたため、引き続き感染予防対策を行うなど利用者が安全で快適な施設利用ができるよう努めました。						
成果指標	指標名	一日当たりの公民館施設(野津地域)の利用人数			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	一日あたりの利用人数(三地区の公民館利用者数合計・359日)				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	野津地域内の公民館の稼働状況を把握することで、更なる稼働率を高める企画開発を行うため			人	58	67	81	93	130
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A;期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A;効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	現在では、地域住民の施設利用が回復傾向にあるため、住民ニーズに応えるべく既存の事業を創意工夫(土日開催など)し、参加しやすい環境づくりに努めています。加えて、一般利用者・団体等の地理的利便性も利用の増加につながったのではないかと考えられます。					
事業の問題・課題	野津地域の人口減少に歯止めがきかず、高齢者の方が身体的能力低下による運転免許証の自主返納が加速し、施設から自宅までの距離が遠いため、適当な移動手段がない方の利用が減少してきています。			目標達成に向け、次年度以降の取組	公共交通機関を利用してでも各施設に足を運びたいくなる開設教室の充実や、住民ニーズに寄り添った魅力ある社会教育活動の推進に励む必要があります。					
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	概ね順調		貢献度 中		強化		施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 9	社会教育課

事務事業名	読書のまちづくり事業			新規・継続・単年	継続					
				ソフト・ハード	ソフト					
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-14-31	読書のまちづくりの推進							
	施策の課題(事務事業の実施目的)	学校・家庭・地域等による市民総ぐるみの読書活動と読書習慣の定着								
	関連施策名(施策コード)	V-14-31	読書のまちづくりの推進							
		V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進							
事業内容(経緯)	図書館では、読書のまちづくりステーションとしての機能充実を図り、豊かな感性を育む人づくりのため、学校・家庭・地域等による市民総ぐるみの読書活動を行い読書習慣の定着をめざしています。主な事業としては、読みきかせ事業や移動図書等を行っています。また、本が大好きな子どもたちを育てるために「子ども司書育成事業」や「読書感想文・感想画・エッセイコンクール」等も実施しています。									
行動指標(実施状況)		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)						
		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画				
	①	図書利用登録率	登録者数÷人口	%	48.1	50.8	52.7	54.6	55	
	②	人口1人あたり蔵書冊数	蔵書数÷人口	冊	4.25	4.45	4.6	4.79	5.2	
	③	読み聞かせ講座開催数	図書館での読みきかせ講座開催数、講師の派遣回数	回	37	41	42	47	48	
④	子ども司書認定者*(小5・小6対象)の活動・図り館運営の講座を受講したものを子ども司書として認定し、家庭・学校・地域に本好きの子どもを広めるもの	子ども司書養成講座認定者の総数	人	57	69	99	109	121		
基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	読書習慣推進にかかる図書館事業の人口一人当たりのコスト				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	(図書館費+読書活動推進事業費)/人口				
	17,462	18,877	内容	図書館運営費および読書活動の推進費用	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源		485.3	479.8	477.0	563.2	1223.0
事業対象	市民		今年度の成果	令和5年度は、子ども司書に10名が認定されました。読書感想文・感想画・エッセイコンクールに、1,706名の応募がありました。読み聞かせ講座を毎月開催し、読書活動の推進を行いました。						
成果指標	指標名	市民1人あたり貸出冊数			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	貸出冊数÷人口				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	人口比率により市民の読書習慣を数値化するため			冊	2.64	2.93	2.69	2.67	3.50
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	学校・家庭・地域等による市読書活動の推進と定着に取り組みました。特に、今年度は学校図書館専門員との研修を行い、SNSでの読みきかせ講座の周知も行いました。					
事業の問題・課題	・乳幼児期から読書習慣を定着させるため、学校・家庭・地域等と連携した市民読書活動を推進し、生涯に渡り本に親しむ環境作りに努める。			目標達成に向け、次年度以降の取組	・読書のまちづくり推進協議会を通して、他団体と意見交換を行い読書習慣の定着をめざす。 ・読む楽しさを広く伝える活動として、読み聞かせ事業を継続する。 ・学校や子ども園等との図書館職員との意見・情報交換を推進する。 ・図書館利用者を増やすため、SNSを活用し、図書館だより広め、市民に図書館に関心を持ってもらう。					
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	概ね順調		貢献度 中		強化 施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。					

番号	課名
F - 10	社会教育課

事務事業名	放課後チャレンジ教室事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	少子化が進行するなかでも参加者を確保する	
	関連施策名(施策コード)	V-12-24 I-3-6	基礎学力の定着と向上

事業内容(経緯)	臼杵市学力向上プラン(行動計画)の中で掲げられている「家庭・地域と連携した学力向上の取組」の一端を担う事業です。学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的とし、放課後・土曜日・長期休暇を活用して退職教職員等の地域人材を活用した補充学習の取組です。小中学校では「放課後子ども教室」、臼杵市中央公民館では「中3生公民館教室」を実施しました。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	小学生放課後教室参加者数	登録者数	人	214	155	139	112	200
②	中3生教室参加者数	登録者数	人	147	162	120	144	150
③	協力者数	学習指導員	人	82	84	87	84	85
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	参加者一人当たりの費用				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	当該年度の事業費÷参加者数			
	6,710	6,220	内容	講師謝礼等	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源		14734	18782	25907	24296	20,000

事業対象	小学生(2・3年生)・中学3年生	今年度の成果	「放課後子ども教室」では、それぞれの学習指導員の工夫により、子ども達は課題を楽しく学ぶことができました。「中3生公民館教室」では、高校受験に向けて学習習慣の定着を支援することができました。
------	------------------	--------	--

成果指標	指標名	小学生・中学生の教室登録率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	登録者数/対象学年の児童・生徒数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	放課後チャレンジ教師事業が効果的に機能しているかどうかの判断材料として指標を設定	%	41	37	34	37	45

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	放課後の学習習慣の定着と復習による基礎学力の向上と同時に、学校とは少し違った雰囲気により、子どもの自主性を図ることができました。

事業の問題・課題	学校や地域の情報を集約して、協力者の確保を協働コーディネーターを中心に継続していく必要があります。また、少子化等により小学生放課後教室の参加者が減少している。現状があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	引き続き、学習活動の指導やサポートが出来る人材を、学校や地域と連携し確保します。各小学校と放課後教室での参加について、連携を強化します。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
F - 11	社会教育課

事務事業名	協育ネットワーク推進事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	学校、地域、家庭の連携を強化する	
	関連施策名(施策コード)	V-14-30	生涯を通じた学びの推進

事業内容(経緯)	学校・家庭・地域が協働して子どもたちを見守り育てるネットワークの拠点(地域学校協働本部)である臼杵・野津の両中央公民館に、中学校5ブロック毎に専門分野担当の協育コーディネーターを配置し、各ブロックで学校・地域・家庭の関わりがよく深められるように地域学校協働活動を推進します。また、地域人材を活用して地域の学習活動で「まなびりすと(生涯学習の指導者一覧)」が活躍できる体制を構築します。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	地域学校協働活動の件数	各学校が地域・家庭と協働して取り組んだ活動の件数	件	46	59	73	98	144
②	「まなびりすと」の登録者数	地域の人材リストに登録した人数(3年毎に見直し更新)	人	133	134	134	134	135
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	野津小学校スクールバス下校指導の1日当たりの費用					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単価(1時間当たり)×2時間×2人				
	1,481	930	内容	講師謝礼・協力者謝礼等	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			2,960	2,960	2,960	2,960	2,960

事業対象	子ども、学校、地域住民	今年度の成果	地域学校協働活動に参加した地域の方々は2,021人でした。また、「まなびりすと」については、学校から要望があった分野の人材を探し登録して派遣するなど、地域づくりを担う人材の確保を行いました。
------	-------------	--------	---

成果指標	指標名	地域学校協働活動に参加した人数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	地域の方とゲストティーチャーの参加者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	学校単位でふれあいを目的に実施した行事等の参加者数により、その地域・学校・家庭の連携の度合いが測れるかと考える。	人	568	556	862	2,188	2,700

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	学校教育に詳しい協育コーディネーターを配置することで学校と地域の連携を取りやすくしています。また、協育コーディネーターが地域と学校の橋渡し役となり、協働活動する機会を築くことで、学校へ協力する地域住民の確保につながっています。	

事業の問題・課題	今年度は通常の活動が可能となりましたが、コロナ禍以前の活動状況までには戻っていないので、継続して地域学校協働活動を実施していくことが必要であると考えます。	目標達成に向け、次年度以降の取組	「まなびりすと」の更新などを実施していき、各学校や地域の方々に活用してもらえるような形にしていきたい。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	やや遅延	貢献度 中	強化
施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 12	社会教育課

事務 事業名	臼杵市体育施設管理運営事業				新規・継続・単年	継続				
					ソフト・ハード	ソフト				
総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	V-13-28	スポーツ環境の充実							
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	スポーツをする機会を適切に提供するため、体育施設の環境を整備する必要がある。								
	関連施策名 (施策コード)	V-13-29	スポーツで健康づくり・体力づくり							
事業 内容 (経緯)	健康づくりや介護予防・競技スポーツ振興のために各種イベントや大会等を実施しています。また、総合公園運動施設、諏訪山体育館・市民グラウンド・柔剣道場・夜間照明施設等を指定管理委託し、利用者に寄り添った運営を行っています。									
行動 指標 (実施 状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
	①	市民球場・多目的グラウンド	利用者数	人	R2 実績 35,318	R3 実績 33,974	R4 実績 37,562	R5 実績 42,490	R6 計画 38,000	
	②	テニスコート	利用者数	人	13,000	13,434	12,319	11,133	14,000	
	③	諏訪山体育館	利用者数	人	10,347	36,882	36,309	39,601	45,000	
	④	その他体育施設	利用者数	人	14,675	10,710	9,960	10,700	21,000	
基本 項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	体育施設の活用にかかる管理費(体育施設費、体育館費、総合公園運動施設費)の利用者数一人当たりのコスト				
	前年度 (R4)	当該年度 (R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	管理費/利用者数				
	6,728	35,832	内容	バスケットゴール改修工事等により増額	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
			財源	一般財源		3.27	0.04	0.07	0.11	0.45
事業対象	市民		今年度の成果	新型コロナウイルスが5類に移行され、各種スポーツ大会も再開し、体育施設の利用者数も増加傾向となっています。また、市民球場は冬季キャンプ等を誘致することにより安定した数値となっています。						
成果 指標	指標名	臼杵地域の全体育施設の一日あたりの利用者数			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	体育施設の開場日(359日)に対する総合公園運動施設、諏訪山体育館、テニスコートその他体育施設の利用者の割合			人	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
	指標設定の理由	健康・体力づくりや競技力向上を目指すため「ひとり1スポーツ」の定着に努める。				243.70	321.40	316.17	305.21	300.00
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	市民の健康増進を図るため、市営体育施設の有効活用が必要と考えています。					
事業の問題・課題	少子高齢化と人口減少が進む中、競技スポーツ人口も減少している。また、コロナ禍によりスポーツする機会が減少したため、引き続き安心して施設を利用できるよう環境整備に努めます。			目標達成に向け、次年度以降の取組	施設の修繕や改修などの維持補修による適正な管理や、接遇マナーの向上に取り組み安心して利用できる環境整備のため、指定管理者との連携を強化します。					
課長 評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	概ね順調		貢献度 中		向上		施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
F - 13	社会教育課

事務事業名	山内流継承事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	少子高齢化による後継者不足	
	関連施策名(施策コード)	V-13-28	スポーツ環境の充実
		V-13-28	スポーツ環境の充実

事業内容(経緯)	県指定無形文化財である山内流を伝統継承するため、夏休みの7月中旬から8月中旬までの期間に山内流游泳所を開所しています。コロナ禍により令和2年度は中止、3・4年度は縮小開催、5年度はプール(海洋科学高校、海辺小)と海(佐志生浜公園)で数日ずつ行うなど、ハイブリッド方式により実施し、無事に運営することができました。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	游泳所高等科卒業生数	高等科卒業生の人数	人		4	1	3	3
②	游泳所尋常科卒業生数	尋常科卒業生の人数	人				2	4
③	游泳所入所者数	游泳所入所者数	人		15	15	40	50
④	実技教室の実施回数	市内各小中学校での訪問実技教室開催回数	回				11	13

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	游泳所入所者数1人当たりのコスト					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	山内流游泳所費/入所者					
	3,576	2,111	内容	伝統継承	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			-	103.60	238.40	52.23	59.60

事業対象	主に小中学生及び成人	今年度の成果	令和3年度から、海とプールのハイブリット方式で行い、生徒40名が入所し安全に運営することができました。その結果、3名が卒業し教師になりました。
------	------------	--------	---

成果指標	指標名	指導者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	游泳所開所中の指導者の人数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	伝統を継承するための教師を育成する		人	-	19.00	26.00	28.00

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	近年、海岸の状態が悪いことや協力不可欠な地元の方々が高齢化などの理由で中津浦鯉来ヶ浜で開催することが難しくなったが、県立海洋科学高校プール、海辺小プール、佐志生浜公園を使用しハイブリットな運営を行い、高等科を卒業し教師となった生徒も出ている。	

事業の問題・課題	200年以上続く山内流は県指定無形文化財で日本泳法13流派の一つであり、その伝統を継承する責務がある。しかし、少子化やスポーツの多様化で入所する子どもが減少し、それを指導する教師も高齢化や就職などの理由で転出するなど後継者が不足している。	目標達成に向け、次年度以降の取組	海とプールのハイブリット方式により、入所者数を確保する。教師たちも伝統を継承する責務があるため役員会等を開催し指導体制の強化に努める。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
F - 14	社会教育課

事務事業名	吉四六ランド運動施設管理運営事業		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-13-28	スポーツ環境の充実	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	運動施設を安心安全に利用できるよう、適切な保安管理に努めます。		
	関連施策名(施策コード)	V-13-29	スポーツで健康づくり・体力づくり	

事業内容(経緯)	風光明媚な自然環境のもと、市民一人1スポーツを推進するため、芝生の育成管理をはじめとする施設の適正管理を行うとともに、指定管理者によるサービスの充実に取り組んでいます。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	吉四六ランド球場の利用者数	年間利用者数	人	3,006	2,776	3,202	3,240	4,200
②	陸上競技場の利用者数	年間利用者数	人	4,662	5,959	5,077	6,842	6,800
③	テニスコートの利用者数	年間利用者数	人	3,968	2,781	2,114	2,299	4,300
④	ゲートボール場の利用者数	年間利用者数	人	6,529	8,867	6,961	6,413	9,000

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	体育施設の活用にかかる吉四六ランド管理費の利用者数一人当たりのコスト				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	吉四六ランド管理費/利用者数			
	25,279	18,954	内容	指定管理による施設管理保全が主体	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源・施設利用料		1,078	902	1,100	597	1,066

事業対象	市民・その他市外	今年度の成果	ゲートボール場以外の利用者数は、前年度より増加しており引き続き利用者のニーズに沿った施設運営に努めます。
------	----------	--------	--

成果指標	指標名	吉四六ランド全体施設の利用者総数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	利用人数の月平均(全体施設の総計/12ヶ月)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	各施設の利用率の向上を図るため	人	1,513	1,698	1,446	1,520	3,641

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	陸上競技場の芝生管理が行き届いているので、サッカーやラグビー(児童)競技が頻繁に行われています。市外を中心とした、こうした団体の利用が増加し、吉四六ランドの陸上競技場の評価が高まり今後も評判を呼んで、市内外の利用者が増えることが見込まれます。	

事業の問題・課題	施設の老朽化が進んでおり、今後の保安管理に課題が残ります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	利用者の安全を確保するため、緊急性の高い故障箇所の修繕等を抜かりなく行っていきます。
----------	-------------------------------	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
F - 15	文化・文化財課

事務事業名	市民会館運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市の文化・芸術活動の拠点である市民会館の活用	
	関連施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進
		V-14-30	生涯を通じた学びの推進

事業内容(経緯)	臼杵市の文化・芸術活動の拠点である市民会館の運営を行っています。空調設備大規模改修工事に伴い休館となっていたため、上半期は貸館を含めイベント実施ができない状況でしたが、令和5年の9月に再開し、スタインウェイ試弾会とNHK公開収録公演「NHKのど自慢」を実施しました。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	自主文化事業の入場者数	自主事業の入場者数	人	371	218	518	853	2000
②	大ホール利用日数	主なホールである大ホールの利用者数	日	43	84	72	80	90
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1施設ごとの利用申請件数に係る費用(千円)					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費 ÷ 施設ごとの利用申請件数				
	17,997	10,979	内容	市民会館運営に係る経費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			46	47	63	49	40

事業対象	市民会館利用者	今年度の成果	令和5年の9月中旬まで休館したことで、自主事業としては、スタインウェイ試弾会とNHK公開収録公演「NHKのど自慢」のみの実施となりました。この2つの事業の参加者からは、好評をいただきました。
------	---------	--------	---

成果指標	指標名	利用申請件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	施設ごとの利用申請件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	施設の稼働率上昇が目的であるため	回	331	434	282	220	470

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	貸館運営については、市内文化団体や学校等の発表の場として需要があり、また市主催の人権講演会などの事業も定期的に行われています。自主文化事業においても、他団体とお共同開催による公演実施やピアノ試弾会などの人材育成を図る事業も行います。

事業の問題・課題	イベント企画に関しては、本課職員が中心となって企画内容を検討していますが、将来は、運営を含めた形で業務体制の検討が必要です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	さらに稼働率を上げるための施策を検討し、実現に向けた取組を行います。
----------	--	------------------	------------------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 中	見直し 事業の効果はありますが、施策への貢献度が小さいため、貢献度に応じたものになるよう事務事業を見直します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 16	文化・文化財課

事務事業名	市民会館管理事業			新規・継続・単年	継続						
				ソフト・ハード	ハード						
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承								
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市民会館を安全に安心して利用するための施設運営									
	関連施策名(施策コード)	II-6-11	「うすき暮らし」の推進								
事業内容(経緯)	市民会館は、築後30年が経過していることもあり、平成29年度からは、計画に基づき大規模改修工事を実施しています。昨年度から引き続き、ホール系空調設備及び電気設備改修工事を実施し、また舞台設備(天井反射板)の更新工事を実施しました。さらには、消防点検等で指摘のあった避難設備などの改修工事も併せて実施しました。										
行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)						
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画		
	①	改修工事等の経費	施設の改修工事に係る費用	千円	196,827	14,782	272,522	227,294	22,000		
	②	使用料収入	各ホールの使用料収入	千円	4,178	8,088	6,259	7,313	10,000		
	③										
基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市民会館利用者1人に係る費用(円)				
		前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	事業費 ÷ 利用者数				
	289,139	237,904	内容	市民会館施設設備の維持管理費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移					
			財源	一般財源		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
事業対象	市民会館利用者		今年度の成果	ホール系空調設備、高圧受変電設備、舞台機構設備、消防設備などの改修工事を実施することで、安全性を確保し、安心して利用者の皆さんが施設利用することができるよう整備しました。							
成果指標	指標名	利用者数			単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
	説明・算式・引用	会館全体の総利用者数				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
	指標設定の理由	-			人	33,761	15,292	20,105	21,400	45,000	
評価	有効性		効率性		評価の理由						
	A	A	市民会館は、芸術文化の拠点施設として自治体、文化団体、学校等の社会活動や文化活動としての場として必要と思われます。しかし、築30年が経過しており、施設の安全性を確保するため計画的な改修工事を行う必要があります。								
事業の問題・課題	施設が大きいため、改修費用が高額になり、財源確保が必要になります。			目標達成に向け、次年度以降の取組	ランニングコストも含め、事業費の削減に努めます。また会館の稼働率を上げるため、より利用者の皆さんが使いやすい施設となるよう検討していきます。						
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針						
	順調		貢献度 大		向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。						

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 17	文化・文化財課

事務事業名	臼杵市歴史資料館運営事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-32	市民の文化・芸術活動の活性化及び伝承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	臼杵市に残る郷土資料の保存、郷土教育の推進	
	関連施策名(施策コード)	V-12-27	学校と地域、家庭の連携の推進
		V-14-30	生涯を通じた学びの推進

事業内容(経緯)	臼杵市に残る郷土資料の保存、郷土教育の推進を行うため、資料館を運営しています。年4回の企画展示に加え、市内の児童生徒対象に「キッズプロジェクト」や、臼杵っこ検定の中・上級者の中から希望者を募り、臼杵っこ学芸員養成講座を実施しました。さらに、一般向けに「市民歴史講座」を開講し、年11回の講座を実施しました。そのほか、絵図ウォークやギャラリートークなども実施しました。		
----------	---	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	企画展示回数	年間の企画展示回数	回	4	4	5	4	4
②	学校教育での利用件数	年間の見学件数	件	12	12	18	10	10
③	各種団体の利用件数	年間の見学件数	件	15	8	4	15	10
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	入場者1人あたりに係るコスト					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費 ÷ 年間入場者数				
	8,951	9,575	内容	企画展開連及び運営事務等経費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			-	-	1.3	2.0	1.0

事業対象	市民(一般、児童、生徒)、各種団体、市外からの来館者	今年度の成果	令和4年度に新たに設けた「市民歴史講座」は2年目となり、募集定員を上回る応募があり、各回出席の受講者数も多く、一般市民向けの企画としては好評を博している。入館者数は昨年度よりも少ない実績となったが、企画展の内容は広く興味をもてるよう工夫し、入館者には好評であった。
------	----------------------------	--------	--

成果指標	指標名	入館者数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年間の入館者数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	入館者数の増加が目的であるため		人	3,075	5,799	6,433	4,709

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	まずは「臼杵市歴史資料館」の存在や、実施している企画展をさらに広く周知する必要があった。学校教育(社会科学習)での利用の呼びかけは校長会などで行い、半数以上の小学校から見学に訪れた。市民歴史講座は受講者に好評を博しており、期待以上の反響が寄せられた。	

事業の問題・課題	企画展については、時宜を得た企画内容の充実をはかる必要がある。市内小中学校(特に小学校)へ「キッズプロジェクト」を利用して、臼杵の歴史を楽しく学べる場としてさらに有効活用してもらえるようさらに周知や展示の工夫を行う必要があった。マスコミでの展示紹介の回数や場所をさらに増やす必要があった。	目標達成に向け、次年度以降の取組	より多くのマスコミ等を利用した広報の充実をはかります。小学校の社会科学習の支援を目的とした展示内容の充実をはかり、校長会などで周知し、児童の見学の機会を増やせるよう取り組みます。
----------	--	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 中	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 18	文化・文化財課

事務事業名	特別史跡臼杵磨崖仏保存活用計画策定事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯)	特別史跡臼杵磨崖仏について、全庁および市民との共通理解の上で保存と活用のバランスをとって保存管理ができるよう、保存活用計画を定めるものです。令和5年度は計画策定事業最終年度となり、案の作成から策定委員会を3回実施するとともに、庁内・地元と内容の検討調整を行ったうえ、計画書を刊行しました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	保存活用計画書の策定	保存活用計画書案の作成	%	-	-	100	-	100
②	保存活用計画策定委員会開催	策定委員会の実施	回	-	-	3	-	2
③	庁内での検討の実施	庁内検討会の実施	回	-	-	2	-	2
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	-				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	-			
	2,156	2,380	内容		数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源			-	-	-	-	-

事業対象	特別史跡臼杵磨崖仏	今年度の成果	保存活用計画書を刊行いたしました。
------	-----------	--------	-------------------

成果指標	指標名	特別史跡臼杵磨崖仏保存活用計画書の作成	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	策定の進捗率		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由		%				####	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	計画は今後の方向性を定めるものであり、計画策定自体の有効性や効率性が評価しにくい。ただ、策定方法については庁内検討会の実施などがスムーズに行えなかったことから改善の余地があるかと思われる。

事業の問題・課題	庁内検討に課題	目標達成に向け、次年度以降の取組	策定完了のためなし
----------	---------	------------------	-----------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
F - 19	文化・文化財課

事務事業名	臼杵市文化財保存活用地域計画作成事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯)	本市全域に分布する文化財の包括的な保存活用に関するマスタープランで、全庁および市民との共通理解の上で保存と活用のバランスをとって保存活用ができるよう、保存活用計画を定めるものです。令和4年度に素案を作成し、庁内関係課及び外部協議会で協議を行ったものをまとめ、計画案を作成しました。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	臼杵市文化財保存活用地域計画書の案作成	計画書案原稿作成	%	-	30	75	90	100
②	現地調査	計画書に必要な文化財調査	%	-	-	100	100	100
③			%					
④			%					

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	-				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	-			
	2,735	1,051	内容		数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源			-	-	-	-	-

事業対象	市内全域の文化財	今年度の成果	計画案について、庁内協議を経て、外部委員会で意見集約を行い、完成した計画案を議会にて内容説明を行いました。
------	----------	--------	---

成果指標	指標名	臼杵市文化財保存活用地域計画書の作成	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	策定の進捗率		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	計画書を作成することが目的であるため	%	-	30.00	75.00	90.00	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	文化財保護法に基づき本計画を策定することで指定、未指定文化財を問わず、国からの支援を受けられる可能性があり、市内文化財の保存活用が円滑にすすめられ、また、価値の知られていなかった文化財の価値を明らかにすることで市民の皆さんの文化財保護意識の向上を図られます。	

事業の問題・課題	市内各地とも人口減により地区で文化財を守っていくことが困難になってきています。このままだと行政の力だけで保存活用を行わざるを得なくなり、市民の財産としての文化財保存活用が市民意識と乖離していく可能性があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	本計画の中では、今後、市内の文化財を保存活用していくための組織づくり言及します。その中で市民団体や民間団体と協働して文化財の保存対策・管理・活用事業ができるよう努める必要があります。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	やや遅延	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
F - 20	文化・文化財課

事務事業名	県指定史跡臼杵城跡保存修理事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	V-15-33	歴史・文化遺産の保存・活用・継承
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-	
	関連施策名(施策コード)	IV-09-15	観光資源の磨き上げと創出

事業内容(経緯)	臼杵城跡の歴史的価値を鑑みて、国史跡への指定を目指し、指定の際に必要な総合報告書の作成に取り組んでいます。また、平成29年から相次いで臼杵城跡の石垣や岩盤が崩落する事故が起きているため、公園利用者の安全な通行を確保するために仮設防護壁を設置し、岩盤崩落対策を行いました。今後も計画的に安全対策と修理を施していくために保存対策調査を行い、保存活用計画・保存整備基本計画を策定して対策を実施する必要があります。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	鏡坂保存対策(仮処置)の実施	対策の進捗状況	%	-	30	100	100	100
②	国史跡への指定	指定の進捗状況	%	-	-	45	45	100
③	保存対策調査の実施	調査の進捗状況	%					50
④	保存活用計画の策定	策定の進捗状況	%					50

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	-					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	-				
	14,194	12,505	内容	国史跡指定のための取組に係る経費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			-	-	-	-	-

事業対象	県指定史跡臼杵城跡	今年度の成果	臼杵城総合報告書作成に必要な石垣測量等を実施しました。
------	-----------	--------	-----------------------------

成果指標	指標名	国史跡指定の進捗率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	策定の進捗率		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-	%	-	-	30.00	45.00	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	石垣や櫓、がけ面といった城郭遺構の保存対策を行うことは、史跡の歴史性を守り、利用者の生命を保護する高い効果があり、保存修理対策は、現状の形状や素材を変えずに行うので、コストはかかります。しかしそれによって文化財としての歴史的価値や、伝統的な工法を後世に伝えることができ、コストに見合った効果があります。	

事業の問題・課題	文化財の歴史的価値を損なわないように保存対策を行ったり、遺構の崩壊の危険性がある場所を通行止めにするによって、都市公園としての利用者や観光客に不便をかけることがあります。また、災害時に避難所として活用するためにも、日常の遺構の崩落やその危険性についての把握を行い、対処を行う必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	国史跡指定を受けてすぐに遺構の劣化調査を行い危険箇所を把握して危険度ランクを設定するとともに、史跡の保存活用計画、保存整備基本計画を策定して計画的な危険対策としての遺構保存修理工事を行います。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	やや遅延	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。